

令和七年度 秋季 鎌倉俳句&ハイク

期間 令和七年八月一日～令和七年十月末

選 者 星野椿 星野高士

投句数 六九一句

特選三句

天 忘れ得ぬ戦友の影秋の空

東京都稻城市 村田文佳

砂利を踏む道なつかしき墓参かな

神奈川県横浜市 田阪武夫

天井の龍と目の合う秋の寺

神奈川県逗子市 高梨優子

漱石の詠みし梵鐘秋時雨

神奈川県横須賀市 青木香文

今朝の秋境内抜け駆前へ

神奈川県逗子市 赤木祐子

新蕎麦や小町の軒に朱の暖簾

神奈川県鎌倉市 阿部史江

野仏のやさしいお顔秋夕日

神奈川県加古川市 いそ野つる女

蜻蛉飛ぶ水平線や二つ山

兵庫県大和市 小林心

師の彫りし皿に名月煌々と

神奈川県横須賀市 斎藤秀一

月の道踏みて帰りし鎌倉道

東京都三鷹市 櫻庭寛

露座仏の愁眉の緩む秋日かな

神奈川県横須賀市 千石正子

爽やかやブロンズ像の肌に触れ

神奈川県川口市 高梨孝

天も地も紅葉ヶ谷に溶け込みく

神奈川県藤沢市 武正義

文豪の墓前に煙る盆の花

神奈川県藤沢市 武正義

入選句

一般の部（三十句）

残暑なお洪鐘のひびき山に透く

岐阜県岐阜市 南谷陽平

江ノ電の汐風乗せて秋うらら

沖縄県島尻郡 南風の姫

秋の日や弁財天も顔を見せ

天仰ぐ父の面影長谷の月

東京都町田市 細木博子

かまくらのだいぶつあおぐあきのくれ

北海道札幌市 村川美津子

天仰ぐ父の面影長谷の月

秋の日や弁財天も顔を見せ

天仰ぐ父の面影長谷の月

東京都町田市 細木博子